

+3.7Cm

ANTITANK GUN

PAK35/36



静岡市恩田原3-7 〒422

1|35 MILITARY MINIATURES SERIES NO.35

ドイツ・37mm対戦車砲



第1次世界大戦は、まだ真価を発揮できなかったとはいえ、次におこる戦争の主役となるべき2つの新兵器を戦場に登場させました。それは「空とぶ鳥かご」といわれた飛行機と、「走る鉄箱」といわれた戦車であったことはいうまでもありません。

この新兵器は、戦後も開発がつづけられましたが、一方でごく自然的な現象として、これに対抗する防御兵器が同時に開発されてゆくことになるのです。戦車に対抗する兵器はすぐに現われました。それは土中に埋められた大口径の砲弾、「地雷」と高初速の火砲だったのです。

戦車の性能が向上し、それに伴って戦術もようやく確立してきた1930年代に入ると、戦車には戦車で対抗すべきだとの新しい思想も出はじまりましたが、戦車にはやはり火砲で対抗すべきであるとの古い観念が、まだ各国陸軍の主流となっていたのです。

ドイツ陸軍が、ラインメタル社に新たな37ミリ対戦車砲の開発を命じたのは、こんな時代1934年のことでした。ラインメタル社は、クルップ社とともにドイツ最大の火砲メーカーで1918年に初の対戦車用37ミリ速射砲を製造した会社でした。

1935年、ラインメタル社のデザインは完成しました。この対戦車砲は総重量 450kg。2個のゴムタイヤつき車輪とトーションバー、サスペンション、それに開脚式の砲架を備えた、少人数の兵士でも楽に移動できる構造につくられていました。一方砲手たちを守るためには、4ミリの装甲防盾がうけられていました。砲の操作は、砲の左側に位置する砲手によって、射角60度、仰角25度ならびに俯角8度ま

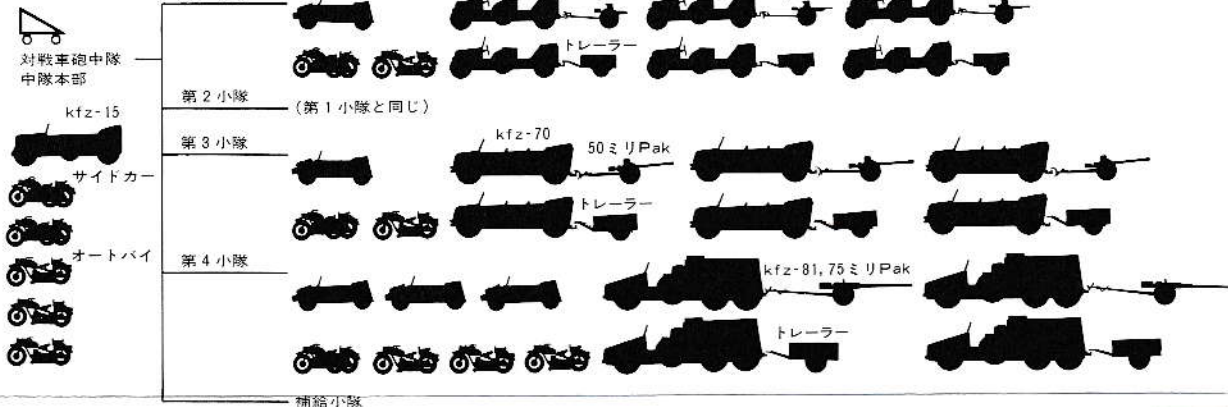
での照準操作が可能でした。又、水平閉鎖機の右側には装填手が控え、1分間に15発の速さで連続射撃ができました。45口径37ミリ砲の性能は、徹甲弾で初速762m/秒、貫通力は457mの距離から、直角に立つ48mmの装甲板を貫通しました。

この37ミリ対戦車砲は、直ちにドイツ軍に採用され、対戦車砲35/36型 (Pak35/36) と正式に呼ばれました。そして1936年より各師団に属する対戦車砲中隊の標準装備として支給されることになるのです。この砲のデザインの優秀性は、当時の代表的な対戦車砲として、ソ連、アメリカ、および日本の対戦車砲発達に強い影響をあたえたといわれています。

1940年、新型のタンクステン弾心徹甲弾 (AP40) が生産されると、当初の初速は1030m/秒に、貫通力も51mmに向上しました。しかし1941年より始まった「バルバロッサ作戦」では、ソ連戦車の強力な装甲を撃ち破ることができず「ドアー・ノッカー」という不名誉なニックネームをつけられることになるのです。そして戦争末期に、砲口に装着する成型炸薬対戦弾 (スティック爆弾) が完成するまで第1戦をしりぞくことになるのです。

又、この対戦車砲は第2次世界大戦中期までハーフトラック式装甲兵員車 (ハノマーク、SdKfz251/10) に搭載され、戦車擲弾兵中隊 (グロスドイッチランド) の小隊長車として長く使用されました。

《ドイツ軍歩兵対戦車砲中隊の編制》(1941年11月当時)

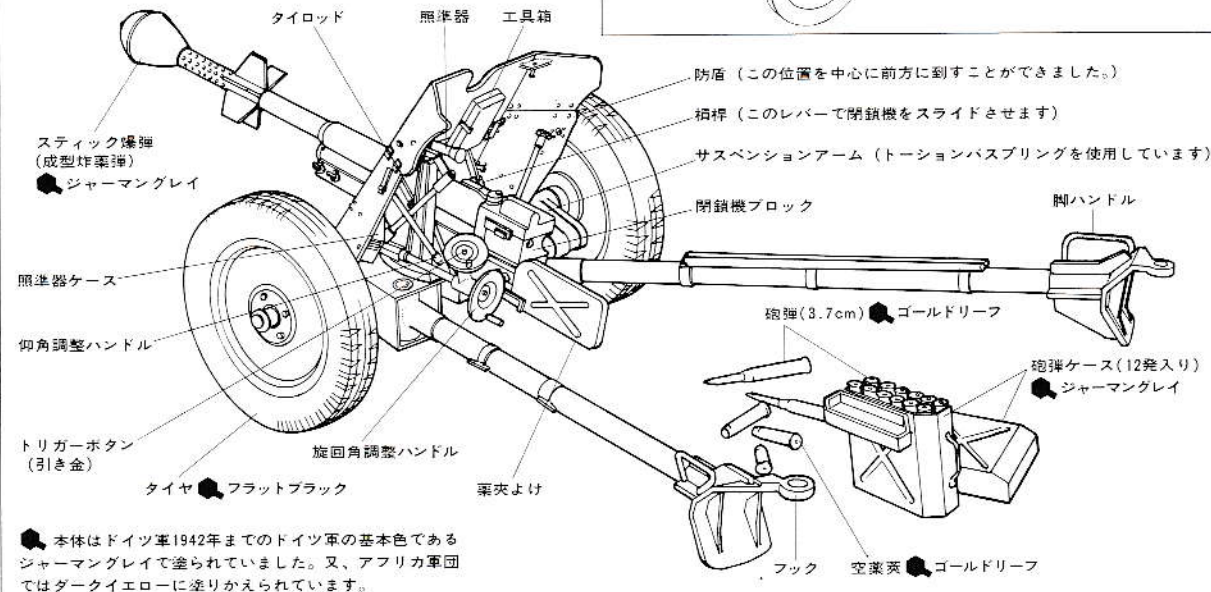


《使用する塗料》

フラットブラック……XF-1 ダークイエロー……XF-60
 ジャーマングレイ……XF-63 フィールドグレイ……XF-65
 ゴールドリーブ……X-12 フラットフレッシュ……XF-15
 ★37mm砲の塗装は箱絵にしめてあります。細部の塗料は組立図中
 及び下図を参考にして下さい。

《人形の配置》

★図を参考に人形を置いて下さい。
 又あなたのアイデアで配置を変え
 てみるのも楽しんでしょう。





《作る前にお読み下さい》

★お買い求めの際、または組立の前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組立を始められた後は製品の返品交換などには応じかねます。

★タミヤからはピン入りの接着剤タミヤセメントが別売されております。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

★ランナー（枝）から部品を切りはなす場合、必ずニッパーかナイフなどを使っていねいに切りはなして下さい。

★キットを組立てる前に必ず説明文を読んで下さい。

★37mm砲は通常の砲架にのせる他、軍用車にも搭載されて、活躍していました。このキットには、ハノマーク兵員輸送車（ミリタリーミニチュアシリーズNo.20。発売中）に取付けられる部品が含まれています。説明図の《付属品の使用法》をよみ、キットの改造を楽しんで下さい。

●このマークは塗装指示のマークです。

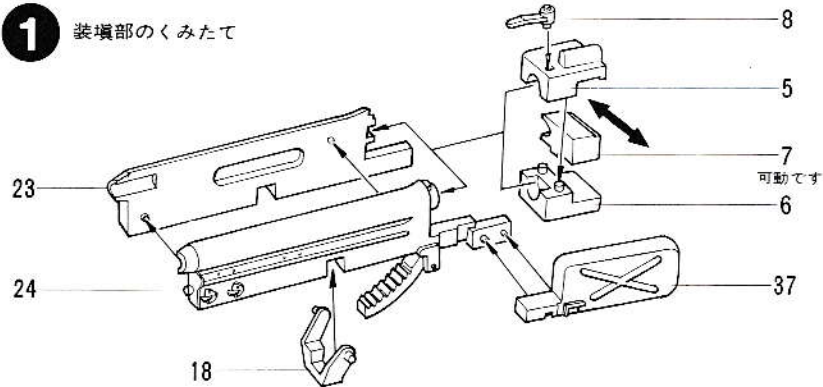
《37mm砲のくみため》

くみため図の順に組立てを行って下さい。⑤まででくみためはおわります。又ハノマーク兵員輸送車に載せSdkfz-251/10を作る方は⑥から《付属品の使用法》に進んで下さい。

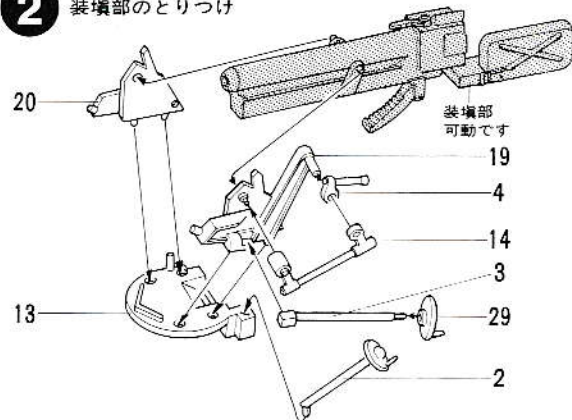
《成形炸薬弾について》

37mm砲からは、通常の砲弾と成形炸薬弾が発射できました。成形炸薬弾とは敵戦車の装甲が強くなり貫通力のなくなってしまう砲弾に変わり開発されたもので37mm砲の砲身にかぶせ通常の火薬によって発射するもので、敵戦車に命中の際、砲弾の中の火薬で装甲を溶かして穴をあけ、車内を炎上させるよう設計されたものです。

1 装填部のくみため

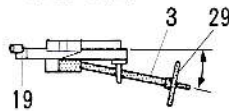


2 装填部のとりつけ

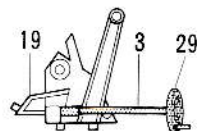


★29、3の取付は下図を参考にして取付けて下さい。

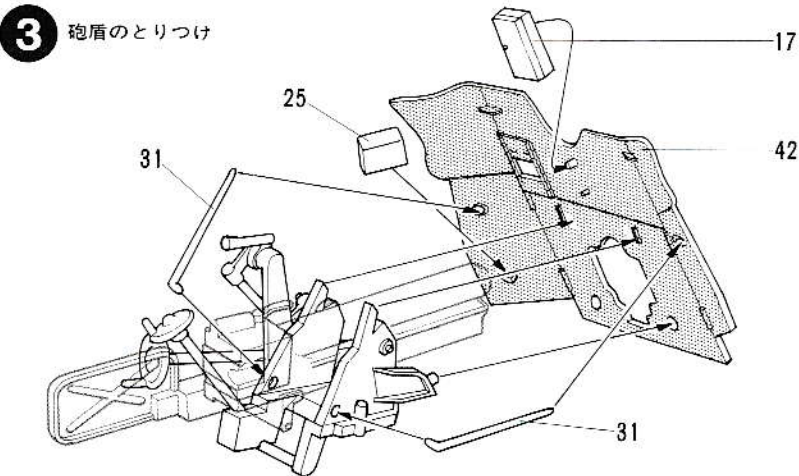
《取付上面図》

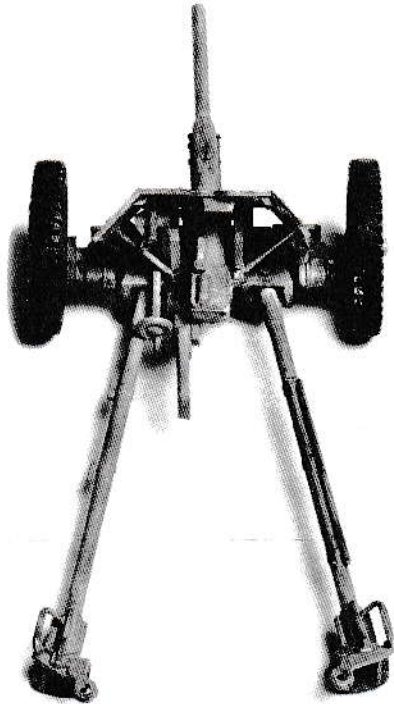


《取付側面図》

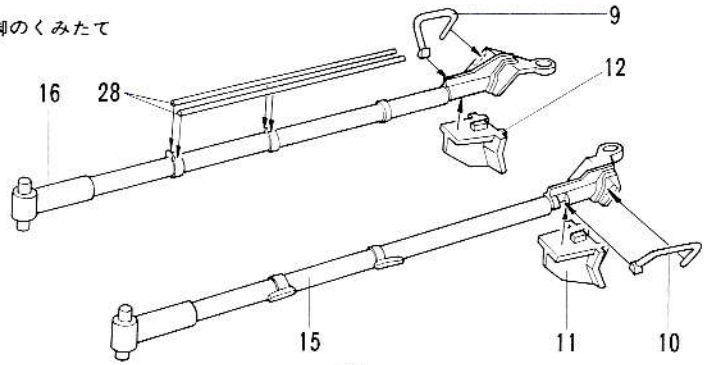


3 砲盾のとりつけ



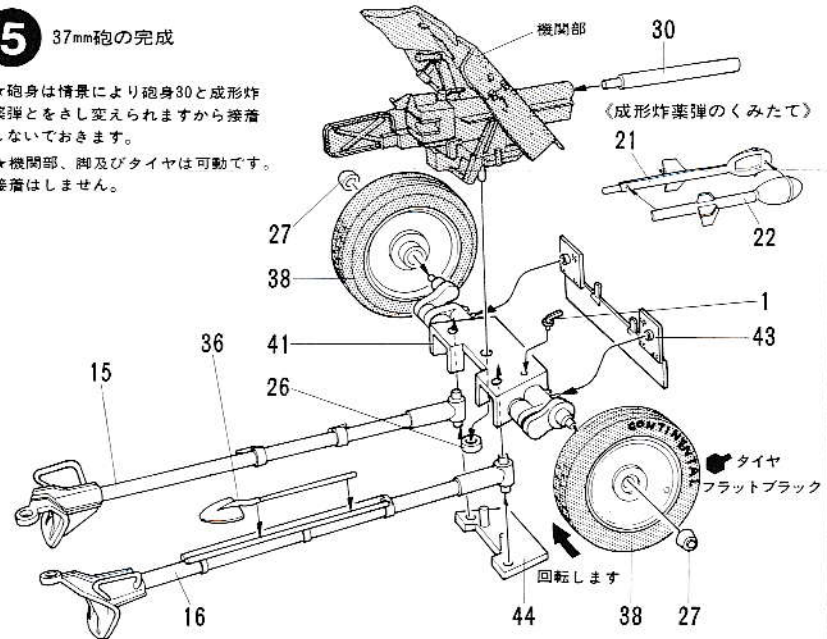


4 脚のくみたて

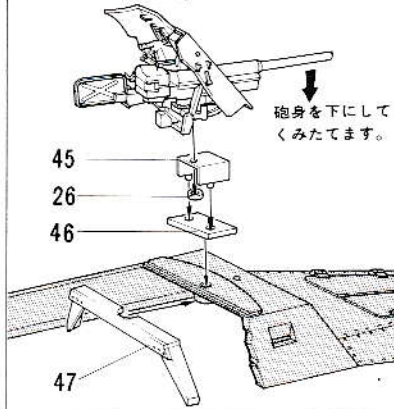


5 37mm砲の完成

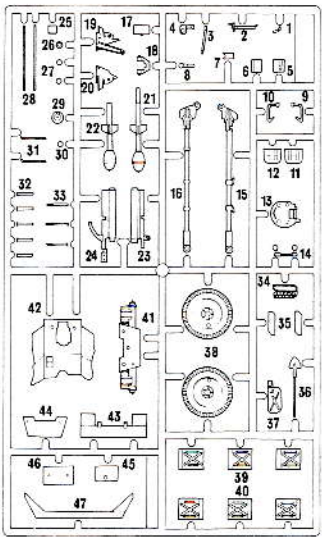
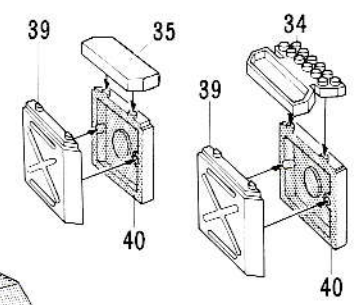
★砲身は情景により砲身30と成形炸薬弾とをさし変えられますから接着しないでおきます。
★機関部、脚及びタイヤは可動です。接着はしません。



《付属品の使用法》



《アクセサリパーツのくみたて》



ハノマーク 兵員輸送車上部
(キットには含まれていません)
★ミリタリーミニチュアシリーズで発売中です。